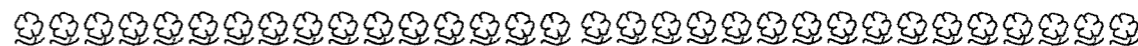




発行日 令和元年 8月25日
 発行所 江ヶ崎地区社会福祉協議会
 発行者 黒川 修三
 045-583-5225
 〒230-0002
 横浜市鶴見区江ヶ崎町21-4

結いしんぶん



『支えあう・助けあう町 江ヶ崎』によせて

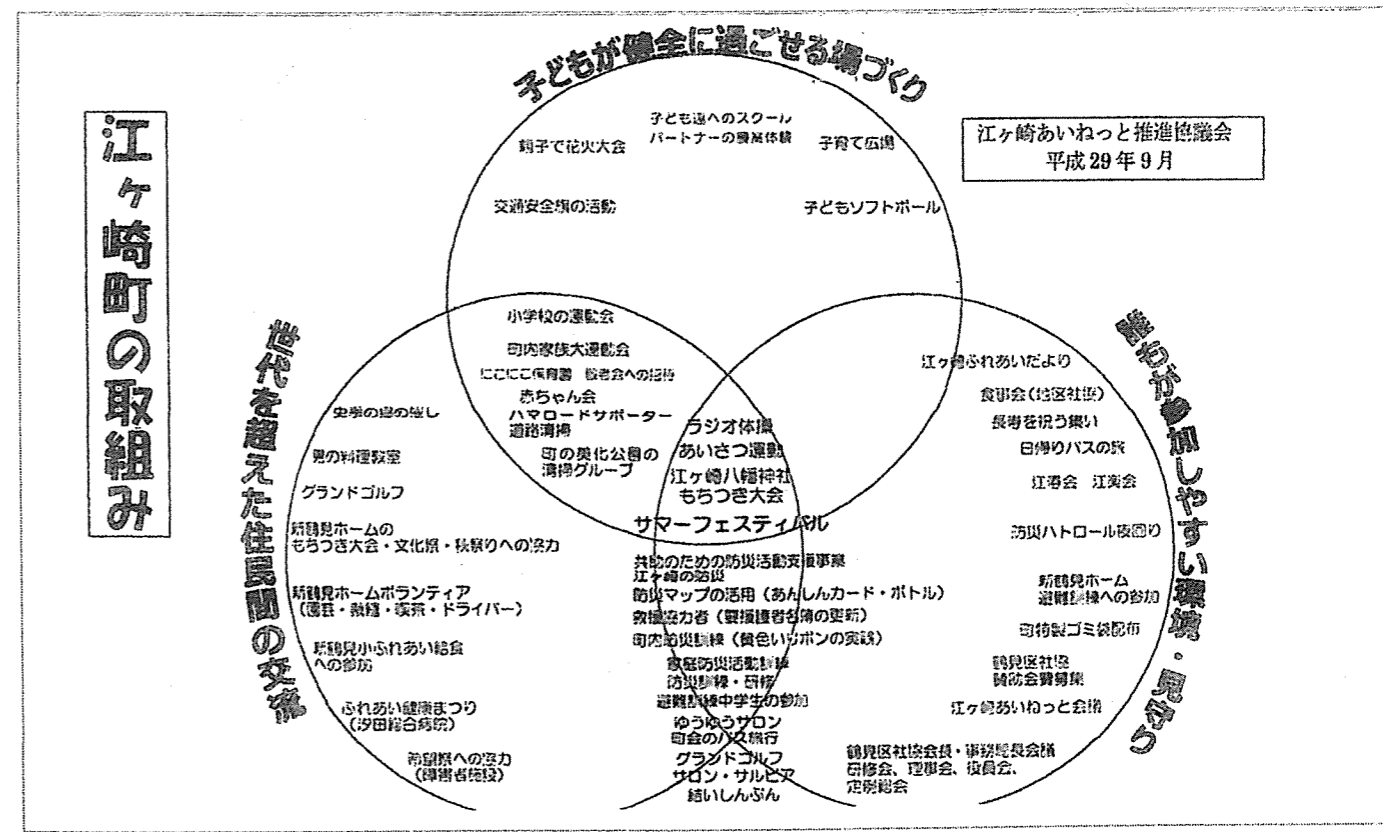
鶴見区役所 高齢・障害支援課介護保険担当係長 上野 綾子

こんにちは。鶴見区役所の上野です。平成28年4月に着任してから、鶴見・あいねっと（鶴見区地域福祉保健計画）で江ヶ崎町を担当して3年目になります。江ヶ崎あいねっと推進協議会の他、防災では新鶴見小学校の参与として、様々な地域での活動に参加させていただいております。

江ヶ崎町は、令和元年7月末現在で人口8,271名（男4,120、女4,151名）になり、この5年間で約1300人の人口が増加しています。特に年少人口が多く、平成31年3月末の統計では年少人口率は22.4%（鶴見区全体12.9%）割合は区内第1位です。また高齢化率は11.0%（鶴見区全体21.1%）で、割合は区内最下位ですが比率は微増しています。

鶴見・あいねっとでは、今年第3期計画の4年目となりますが、『支えあう・助けあう町 江ヶ崎』を江ヶ崎町の柱に、①子どもが健全に過ごせる場づくり ②世代を超えた住民間の交流 ③誰もが参加しやすい環境・見守り を目標に計画を進めております。昨年度は『子そだて世代の声をきいて、地域でやりたいことを考えよう』をテーマに住民アンケートと地区フォーラムを実施し、一昨年は江ヶ崎町の取組みについて「地域活動の見える化」をし、下の表にまとめる等、日頃から地域の課題に取り組んでいるところです。

江ヶ崎町は人口増加に伴う発展とともに、地域での様々な活動を行い、関係を築いていく素敵な町だと日頃から感じています。表のとおり、様々な活動が目を見ますが、なかでもサマーフェスティバルでは子供達が楽しそうに詰めかけ、秋の総合防災訓練では大勢の方が参加し、ペットの避難訓練等も区内で最初に導入して災害に備える等、町の取組みもとても充実しています。再来年からの鶴見あいねっと第4期計画の策定に向けても地域の皆様と連携し、江ヶ崎町の向上と発展に取り組んでまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



★新鶴見小学校★

暑さ厳しい8月、スクールパートナーの皆様からご指導・ご支援いただきながら育てている作物は、太陽の光をたっぷり浴びて順調に育っています。秋の収穫が待ち遠しく感じられます。

さて、その作物の中に今年度は例年にないものが植わっています。『こんにゃく芋』です。今年の5月、横浜市と交流提携がある群馬県昭和村から職員が『こんにゃく芋』を植えに来てくださることになりました。昭和村は本校の5年生が宿泊体験学習を行う赤城学園のある場所で、本校とも縁があります。当日は1年間で収穫できるものと6か月で収穫できるものを持ってきていただき、現4年生と7組の子供たちが植え付けをおこないました。こんにゃくの原料は何かを初めて知った子どもも多くおり、慣れない手つきで一生懸命、苗芋を植えていました。5年生になったら、収穫して「こんにゃく」を生成する体験をおこなう予定です。せっかくいただいた「縁」からよりよい活動につなげていきたいと考えます。

新鶴見小学校長 濱田 哲也

★新鶴見ホーム★

本年4月に所長に着任してから早5か月、ホームの運営は、地域の皆様、ボランティアの皆様の活動に支えていただいていることを日々感謝しています。

6月には江ヶ崎社協のボランティアの皆さんによるホーム敷地内の清掃、雑草取り、草木の剪定、花植えなどの園芸・環境整備を行っていただきました。7月の江ヶ崎サマーフェスティバルでは、恒例のアイスパイン販売ブースを出店し、8月の江ヶ崎八幡神社祭礼では、神輿渡御に職員が参加しました。

当ホームで生活されているお客様も、地域行事を楽しみにしています。

これからも、地域の皆様への感謝の気持ちを忘れずに、職員一同活動していきたいと心新たにしています。引き続き、よろしくお願いいたします。

新鶴見ホーム所長 森 崇

★新鶴見公園★

梅雨、猛暑も過ぎ、公園内の散歩の季節が来ました。安全、安心、清潔で過ごせる公園を目指して頑張ります。

ごみは各自持ち帰りに協力をお願いします。毎月第2、第4日曜日の午前中、草刈り、清掃など行っています。お手伝いできる方ご協力をお願いいたします。

新鶴見公園愛護会 菊池 武徳

編集後記

令和となって初めての「結いしんぶん48号」をお届けします。おおくの皆さまにご協力を頂きました。ありがとうございました。

9月以降、「ふれあい会食会」「長寿を祝う集い」がおこなわれます。

どうぞ、多くの皆さまのお出でを お待ちしております。（た）

★新鶴見小 コミュニティハウス★

初めまして、この四月に着任しました川田です。

地域の皆様のご指導を頂きながら「明るく楽しく爽やかな」コミハを目指しております。どうぞよろしくお願いいたします。コミハをご利用の方々は、だいぶ顔馴染みになりましたかしらね？

鶴見区に移り住んで三十余年、江ヶ崎には縁がなく、今回の異動で漸く場所を把握しました。今、あっちこっち歩いて地域探索しています。新しいマンションと昔からの工場が並んでいる街並み、大きな人道橋、そして線路がいっぱい。どこに行くにも橋を越えたり、踏切をわたったり。

この七月八月は、江ヶ崎サマーフェスティバル、江ヶ崎八幡神社祭礼と、盛大なイベントに参加させて頂きました。小さなお子さんから年配の方まで、元気で、熱心で、活気があり、熱い地域愛にびっくり。この勢いをコミハにも吹き込んで頂きたいなあと思ひました。

どうぞ皆様、コミハにご用が無くても気軽にお立ちよりください。お待ちしております。

新鶴見小学校コミュニティハウス館長 川田 恵利

「第23回 江ヶ崎町
長寿を祝う集い」のお知らせ

●ことしの「長寿を祝う集い」は、10月20日（日）正午より、新鶴見小体育館でひらかれます。

江ヶ崎町にお住いの満70歳以上のみなさんが、一年に一度一堂に会し、長寿と健康をお祝いする会で、式典・手作り料理・余興とお楽しみ抽選会で、くつろいだひと時をお過ごしいただきます。

既に登録いただいているみなさまには、9月下旬に招待状をお届けいたします。

この催しは、江ヶ崎地区社協・江ヶ崎町内会・町内有志の方々の協力のもと、毎年盛大に行われてきて、ことしで23回目を迎えます。

●江ヶ崎町にお住いで、ことし70歳になられた方
なられる方へ

「長寿を祝う集い」の招待状をお届けするために、新しい名簿を作成します。お申し込みいただきたい方は、次のみなさんです。

（なお、一度登録されますと、出欠を問わず、毎年招待状をお届けいたします）

★ことし（2019年1月1日～12月31日）70歳になられた方、これからなられる方

＜昭和24年（1949）1月1日～12月31日のご誕生の方＞

★以前から江ヶ崎町にお住いの70歳以上で、いままで「長寿を祝う集い」の名簿に登録されていなかった方

★平成30年9月以降に、江ヶ崎町に転入された70歳以上の方



第22回（H30年）「長寿を祝う集い」

◆◆◆ 平成30年度 江ヶ崎地区社協 収支決算書 ◆◆◆

令和元年5月10日 江ヶ崎地区社協・定時総会がひらかれ、任期満了にともなう役員選出、H30/31年度の決算と予算、事業報告と計画等の審議がなされました。その結果は、「結いしんぶん/回覧版119号」にて、ご報告いたしました。

下記に「H30年度 収支決算書」を掲載いたしますので、ご覧ください。

科目		決算額(円)	科目		決算額(円)
収 入	横浜市社協 補助金	50,000	支 出	事業費	930,741
	鶴見区社協 補助金	279,400		広報・調査・研修費	89,219
	町内会からの補助金	200,000		事務費	10,088
	その他の補助金・助成金	0		会議費	4,251
	江ヶ崎社協独自会費	0		渉外費	15,000
	鶴見区社協還元金(賛助会費)	335,700		備品費	0
	収益金	49,500		助成金	5,000
	寄付金	55,000		会費	45,108
	予算利子	2		ボランティア保険	19,250
	雑収入	0		雑費	0
	負担金収入	193,300		予備費	0
	前年度繰越金	390,865		次年度繰越金	435,110
合計額	1,553,767	合計額	1,553,767		

＜地域包括支援センターより＞

～健康は健口から～

オーラルフレイル予防が健康寿命を延ばすひとつの鍵！

「オーラルフレイル」とは、お口のささいな衰えのことを言います。また「フレイル（年を重ねることによって起こる体や心の動きの衰え）」につながる原因のひとつになっています。そこで、健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）を延ばすためにも「オーラルフレイル」の予防が大切になります。

【オーラルフレイルになっていないかチェックしてみましょう】

合計点数が3点以上の方は、
かかりつけの歯科医院に
ご相談ください！

オーラルフレイルをどこでも簡単にチェックできる問診票です。
3点以上の「危険性あり」となった人には、専門的な対応が必要です。

質問項目	はい	いいえ
半年前と比べて、かたいものが食べにくくなった	2	
お茶や汁物でむせることがある	2	
義歯を使用している	2	
口の乾きが気になる	1	
半年前と比べて、外出の頻度が少なくなった	1	
さきいか・たくあんくらいの硬さの食べ物が噛める		1
1日に2回以上は歯を磨く		1
1年に1回以上は歯科医院を受診している		1

合計の点数が

0～2点
オーラルフレイルの危険性は低い

3点
オーラルフレイルの危険性あり

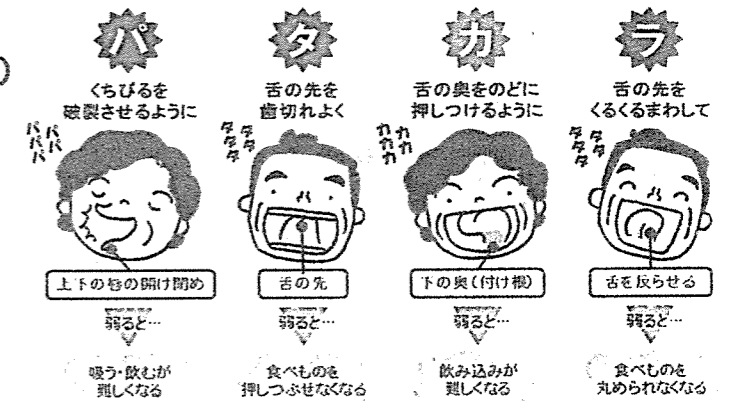
4点以上
オーラルフレイルの危険性が高い

※東京大学高齢社会総合研究機構 田中友規、橋本真実：作成

【オーラルフレイルかもと思ったら！】

- 日々の歯みがきも含めお口の手入れ(義歯の手入れ)
- バランスのよい食事をとる
- かかりつけ歯科医を持つ
- 口や舌を使う…カラオケ、おしゃべり、早口言葉
お口の体操など ⇒⇒⇒

バタカラ体操は、食べ物を上手にのどの奥まで運ぶ一連の動作を鍛えるための、発音による運動です。



オーラルフレイルにならないよう、ご自分でできること、仲間のできることに取り組んでみましょう！

～着任のご挨拶～



せじま 和美
所長 妹島 和美

4月1日付けで矢向地域ケアプラザの所長に就任しました 妹島 和美（せじま かずみ）です。地域の皆様が健やかで安心した生活が送れるよう、笑顔とつながりを大切に、地域の皆様から愛されるケアプラザを目指して、全職員とともに努める所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

地域の皆さまにとって、より健康で住みやすい地域になるようなプログラムの企画や、「交流の場づくり」のお手伝いをします。一生懸命頑張ります。よろしくお願いいたします！！



地域活動交流
コーディネーター
はやかた ともか
早形 知香

江ヶ崎この人

きくち いね
菊池 イネさん



プロフィール

生まれ：昭和11年(1936)5月2日 満83歳 子(姪)年
栃木県芳賀郡山前村西沼(現 真岡市西沼)
6人兄弟(二男四女)の末っ子
趣味：旅行、料理、スポーツ → 昔は軟式庭球
今は グランドゴルフ
嗜好：好きな食べもの 鉄火丼・唐揚げ
嫌いな食べもの うなぎ・どじょう
(お酒) この頃 少し飲めるようになりました。

一ふるさとは 栃木県真岡市

栃木県の南東部、関東平野の北のはずれにある真岡市がふるさとです。生家は米作り農家で、煙草の栽培もしていました。

兄弟は6人です。兄が2人、姉が3人で、私は6番目の末っ子です。親が年を取ってからの子で、長兄とは20歳、長姉と12歳、次姉と9歳、すぐ上の姉とは4歳離れていて、物心が付いたころには、兄は出征していました。末っ子の女の子ですから、とても可愛がられて育ちました。

こどものころは、戦時戦後の混乱期でしたが、母

と3人の姉たちが、いつも私を守ってくれる、いつも味噌っかす状態に慣れっこになっていて、なんとなくポーっと育ったような気がします。だから今でもダメなのでは、とも思っています。

一怖かった 空襲の記憶

5歳の時、アメリカとの戦争が始まりました。初めのうちは内陸部の農村地帯は、比較的平穏な日々が続き、幼い私には戦争を身近に感じることはありませんでした。

戦争も後半になり、爆撃機B29が編隊を組んで宇都宮市を目標に飛来するのを見上げた時、戦争は怖いと強く思ったものです。

真岡で、焼夷弾が落ちたのは芳賀病院、専売公社、真岡駅の三ヶ所。たんぼに落ちて稲が真っ黒になったのには驚きました。

私も年をとって、子どもの頃のふるさとへの思い出は薄らいできましたが、この空襲の記憶だけは、鮮明に残っています。

当時は今ほど 勉強、勉強といわれることもなく、中・高校を通し 部活動の軟式庭球に夢中で、あちこちの試合に参加しました。

高校を卒業して、実家で和裁を習っていました。兄嫁の親戚が、大田区下丸子でお寿司屋をやっておりまして、「忙しいので手伝っておくれ」といわれ上京、ほんのチョットとの軽い気持ちで来たのです。住み込みで働いていたところ、知人の紹介で、お見合い、結婚そして江ヶ崎へ来ました。

一江ヶ崎に来て、半世紀

昭和33年、茨城県結城市出身の菊池栄さんと結婚。主人24歳、私は23歳でした。

結婚して9年後の昭和42年、江ヶ崎の現在地(すいせん地区)にまいりました。そのころの新居の裏は畑、前を二ヶ領用水の分流が流れ、前の道の向こうはたんぼでした。

引っ越してきた次の昭和43年、現在の江ヶ崎町公会堂が新設されたのを覚えています。

一江ヶ崎町公会堂管理者 を15余年

昭和50年から15年近く「公会堂管理者」を務めました。常に家にいる私の担当となりました。

この仕事はキリがなく、結構大変でした。ほとんどの使用者はきちんとされていましたが、「電灯の消忘れ」「シャッターが空いていた」「使用後の掃除が不十分」とか、いろいろ苦情もあり、夜中の12時に公会堂に駆けつけることもありました。

いまの住まいを新築する以前の家のころ、駄菓子屋とのちにコインランドリーを併設し、主人が定年になるまで続けました。放課後は子どもさんでいっぱいでした。その頃来てくれたみなさんは、今、立派になられています。

平成6年、そのころの民生委員主導で立ち上げられたボランティア・グループ「いちりんの会」に最初のメンバーとして参加しました。スタート時の女性は25名で、最初の取組みは、今も続いている「お年寄りの食事会」でした。スタート時のメンバーで残っている4名のうちの一人が私で、現在もBグループで頑張っています。

主人が元気でした頃は、よく家族で旅行をしました。子ども達がすべてお膳立てしてくれて、国内の観光地はもとより、海外も数回出かけました。いい思い出がたくさんあります。

いまは、心配事もなく幸せなよい時間を過ごしています。目下のところ、相性のいいグランドゴルフが一番の楽しみです。

インタビューを終えて

「ご主人 栄さん(平成27年逝去、享年81)は、体育指導員を9年、体育部、会計、広報部など、途切れることなく町内会役員を歴任されました。

町内活動の推進役として活躍されたのも、一歩下がって、陰でしっかりと支え続けられたイネさんの功績は大きいと思います。イネさんも平成27年鶴見区社協より「ボランティア活動功労者」として感謝状が贈られました」(鴨志田正晴さん談)

新鶴見ホーム・地域交流室について

鴨志田 正晴

平成10年、横浜市より規模の大きな老人ホームの整備を計画しようとしている、については新鶴見操車場跡地の一部を候補地に予定したいが、地元として協力してもらえるだろうかとの打診を受けた。

新鶴見操車場は、総面積約83ヘクタール(約25万坪)で大正13年(1924)に計画され、用地割合は川崎市85%横浜市15%で昭和4年開業、昭和59年(1984)まで国内有数の操車場として機能。操車場建設により江ヶ崎総戸数26のうち11戸と八幡神社が移転となり大きな犠牲を払われた。

昭和59年、新鶴見操車場の機能停止の発表から間もなく、江ヶ崎町内会は、操車場跡地(横浜市内)を、市民のために横浜市が購入してほしい旨の要望書を提出した。

平成7年(1995)4月、新鶴見小学校の開校、新鶴見小コミュニティスクールの開館し、操車場跡地の再利用が始まった。さらに横浜市は特別養護老人ホームを江ヶ崎地内操車場跡地の一部に建設することに決定した。地元江ヶ崎町内会にもその旨の通知があり、協力の依頼もあった。周囲の土地の価値が下がる、あるいは環境が壊されるなどの理由から反対する地域もあると聞き及んでいたが、地元説明会において近隣住民はじめ地域からの反対意見は皆無であった。それを踏まえて、江ヶ崎町内会は町の総意として老人ホームの建設に協力することになった。

江ヶ崎町内会は、施行主であり運営者となる横浜市に対し、地域と共生する模範的な老人施設を目指し、また老人施設に地域と共に活用できるスペース(例、地域交流室など)を設計に取り入れることを提案した。これは前例のない事案とのことでかなりの時間を費やしたのではないかと思われた。

横浜市は、大型老人ホームの建設の経験は浅く、戸惑うことが多々あったとのことであったが(担当者のお話)、江ヶ崎町内会が要望した「地域交流室」

の設置については、状況を理解され監督省庁の承諾を取り付けられて「地域と共生する施設」としての前例を作られた。当時は未だ会議室などはともかく、地域が利用できる「地域交流室」などは発想になかった時代でして、地域の葬儀も行なう老人ホームの地域交流室など、日本中探しても恐らく何処にも前例が無かったのではないかと思う。

開所から1年を経過した平成13年7月、「新鶴見ホーム地域交流室使用について」すなわち葬儀を含む地域交流室の使用についての覚書を新鶴見ホーム所長と江ヶ崎町内会長とで取り交わし「地域で地域と共に共生する施設」が発足した。

平成17年5月、新鶴見ホーム開所5周年の記念植樹が、江ヶ崎町内有志65名の協力により行われた。

この記念植樹の話の経緯は、町内の定例役員会の席上、ある地区長さんからの「新鶴見ホームが間もなく5周年になるが、みんなで記念樹でも植えてあげたらどうだろう」との発言から実現したものである。

記念樹には、「くすのき」と桜「ソメイヨシノ」と「ヨコハマヒザクラ」で、「くすのき」は平成17年6月、桜「ソメイヨシノ」「ヨコハマヒザクラ」は、同年11月に植栽された。

「くすのき」は新鶴見ホームのシンボルになりつつ元気に育っている。桜は新館工事のため、平成24年止むを得ず伐採されたが、代変えの桜が植栽されている。

新鶴見ホームも今年で開所19年を経過した。10年後20年後次世代に委ねた新鶴見ホームがどのような姿に発展しているのか楽しみである。



地域交流室前の 記念樹「くすのき」